

三丘アカシアトークカフェ
第8回

百舌鳥古墳群で 大山古墳は なぜ巨大化したか

—ヤマト王権の覇権と統治の実像をさぐる—

講師

宮川 渉さん (併設1期)

文化財保存全国協議会元代表委員
奈良県立橿原考古学研究所顧問

2020年

10 / 3 (土)

14:30 ~ 16:30

会場：三丘会館

会費：500円

百舌鳥古墳群で大山古墳はなぜ巨大化したか

講師からのメッセージ

大山古墳は墳丘の長さでは日本一の大きさを持っていますが、なぜそんな大きさの前方後円墳が百舌鳥に造られたのか。また古墳の大きさとはどんな設計で、どのように計量されているのか、など具体的に説明されないままで「巨大さ」だけが独り歩きしています。敗戦直後、破壊され荒廃した百舌鳥古墳群の惨状から保存運動に参加し、その過程で前方後円墳の設計や計量の研究に取り組んだ視点をもとに、お話ししたいと思います。 宮川 渉



講師：宮川 渉（みやかわ・すすむ）さん（併設1期）

1932年生まれ。太平洋戦争の末期(1944年)ごろに古墳に興味を持つ。後藤守一著『先史時代の考古学』を読み、国定教科書の『国史』の神話歴史教育と考古学の記述が、まったくかみ合わない疑惑と不信を感じる。敗戦によって皇国史観から解放された考古学に興味を持つ。

1946年冬、百舌鳥七観古墳で遺物が露出しているのを発見、歴史の福島雅蔵先生（中40期・旧職員）が京都大学考古学教室へ届けられ、戦後最初の学術調査となった。その後森浩一さん（中47期）と出会い、魅力的な人柄にひかれて兄事する。また榎原考古学研究所を創設された末永雅雄先生に師事し、考古学の指導を受けた。

大阪歯科大学に進み歯科医師になったが、民間研究者として考古学の勉強は続け、1955年には破壊に直面したイタスケ古墳の保存運動に森さんと取り組み、文化財保存運動とともに陵墓公開を求める学会連合の運動に参加。

文化財保存全国協議会元代表委員・奈良県立榎原考古学研究所顧問。

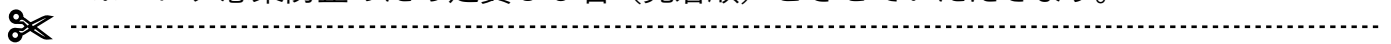
著作『よみがえる百舌鳥古墳群——失われた古墳群の実像に迫る』など。

日時：2020年10月3日（土）14：30～16：30

会場：三丘会館 会費：500円

申込：三丘同窓会事務局までお申し込みください。

※コロナ感染防止のため定員50名（先着順）とさせていただきます。



三丘アカシアトークカフェ 第8回 百舌鳥古墳群で大山古墳はなぜ巨大化したか 申込書

年 月 日

お名前	中・併 高・定	期/回	旧職員 現職員
連絡のつきやすい 電話番号	備考		

三丘同窓会事務局 〒590-0023 堺市堺区南三国ヶ丘町2丁2-36
TEL (072)238-3093 / FAX (072)242-7876
E-mail sankyuu@oregano.ocn.ne.jp